

## 平成 23 年度 (2011 年度) 真珠養殖漁場の真珠母貝成長

幡野 真隆・石崎 大介

### 1. 目的

県内淡水真珠養殖漁場の状況を把握するために、水質および母貝の成長をモニタリングした。

### 2. 方法

2011 年 4 月から 2012 年 3 月にかけて県内の主要な真珠漁場である西の湖、赤野井湾、堅田内湖において、概ね 2 ヶ月に 1 回、真珠母貝の殻長および殻重の測定を行った。測定に用いた貝は 2008 年より垂下している大型の母貝(それぞれ n=19, 19, 18)ならびに、2010 年より垂下している小型の母貝(n=20, 20, 19)の 2 系統である。水質はイケチョウガイの餌料環境を評価する指標として、粒径 20 μm 以下の画分のクロロフィル a 量を分析した。

### 3. 結果

各漁場における母貝の成長を図 1 に示す。各漁場の母貝は 2011 年度の調査期間中、すべて生存していた。母貝は 4 月から 12 月まで成長し、殻長は 2008 年垂下貝では過年度の成長差を反映して、堅田内湖がもっとも大きく、赤野井湾、西の湖の順であった。2010 年垂下貝では赤野井湾が大きく、西の湖、堅田内湖はほぼ同程度であった。各母貝の年間の成長量は、2008 年垂下貝は西の湖で成長量が高く、赤野井湾で最も低かった(図 2)。2010 年垂下貝では赤野井湾で最も高く、堅田内湖で低かった。

イケチョウガイの成長の指標となる粒径 20 μm 以下の画分のクロロフィル a 量では、3 漁場を比較すると赤野井湾でやや低い傾向が認められたが(図 3)、過年度の数値の範囲にあり、餌料環境としては十分であると考えられた。

調査した 3 漁場ともに成長差はあるものの、

著しい差はなく、概ね良好な環境が維持されていると考えられた。今後も引き続きモニタリングを継続していく必要がある。

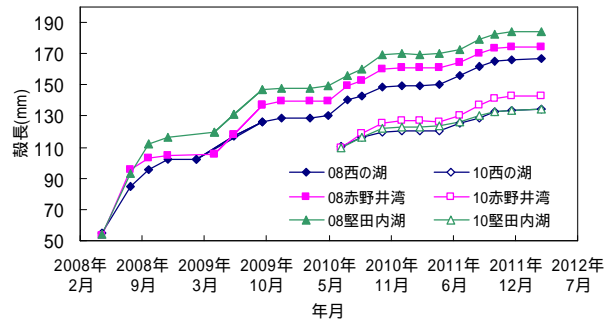


図 1 試験貝の殻長測定結果

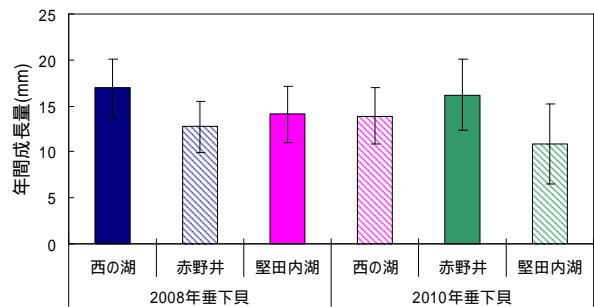


図 2 試験貝の年間成長量

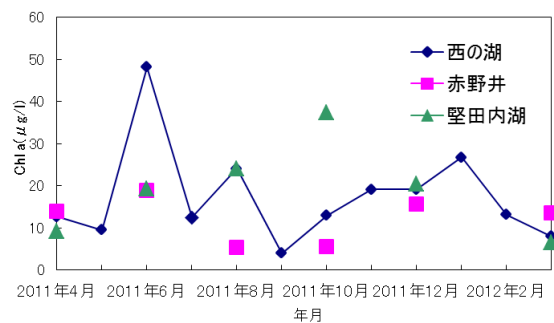


図 3 粒径 20 μm 以下の画分のクロロフィル a 量の推移